



ニラの原産は中国西部。北はモンゴル、南はマレーシア、ベトナムまで、アジアの地域で古くから栽培されてきました。強い香りのもと、硫化アリルはビタミンB1の吸収率を高め、糖の分解を促進、血行を良くし体を温め、胃腸の働きを助けるので、風邪予防や回復にも効果的、抗酸化作用によるがんの抑制効果も期待できます。

強健な野菜で、一度植えれば毎年、年に数回も刈り取りできるので、狭い家庭菜園にもうってつけです。

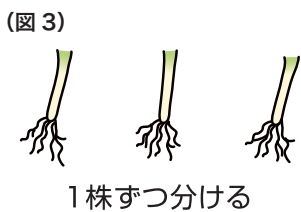
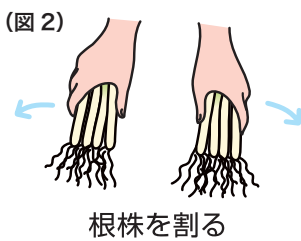
しかし、いくら強いといっても2〜3年取り続けると、株が密に



なり、幅広で厚みのある良質の葉が収穫できにくくなります。そうなる前に株分けし、更新を図ることが大切です。

株分けの適期は、越冬後の1月下旬〜3月上旬にかけてです。ニラの育ちを観察すると、冬に入ると葉が次第に枯れ、休眠状態に入りますが、この休眠が覚め、新しい小さな芽が働き始めた頃を見計らって株分け作業をします。この頃は根株に栄養がたっぷり蓄えられていて、断根や分割という荒療治をしても傷みが少なく、作業もしやすいからです。

株分け作業は、まず残っている枯れ葉を、地上5cmほどの高さできれいに刈り取ります。そして株の周りにクワかシャベルを大きく打ち込み、根株を掘り起します(図1)。株元には強い細根が密に張っている

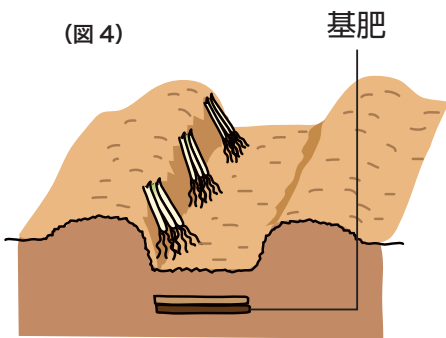


掘り上げた株は土を落とし、指先を力を入れて大まかに割り(図2)、さらに小割りして1株ずつに分けます(図3)。

新しい畑への植え付けは、条間80cm、深さ10cmほどの植え溝を掘り、基肥として堆肥、油かす、化成肥料を施し、5〜6cm土を戻してから2〜3株まとめて、20cm間隔に植え付けます(図4)。

植えるときには根株を束状にまとめず平置きにするのが良いです。覆土は株の上部が少し出るぐらいにとどめ、やがて新葉が伸びだしてきたら、葉先を埋めないよう注意して、2回ほど覆土し、溝が全部埋まるようにしてください。

こうすれば2〜3カ月後には見違えるほど良質の葉が成長してきます。収穫は葉長20cmほどに伸びたときから繰り返し行います。



## 肥料・農薬のご紹介

水田畦畔の雑草防除に

### カソロン粒剤 4.5



11月〜2月の散布で、長期間雑草を抑え、来春の斑点米カメムシの発生を低減します!

#### ■主な特徴

- ・普通物のため、取り扱いやすい。
- ・長期間雑草を抑えます。
- ・粒剤なので、使用がすごく簡単です。
- ・ギンギシ・ヨモギ・スギナ・ヤブガラシ等の難防除雑草によく効きます。
- ・平地や傾斜地へも楽に処理ができます。
- ・斑点米カメムシが産卵する雑草を枯らすので、発生量を少なくすることができます。

均一に散布すれば、非常に抑制効果の高い除草剤です!

※環境こだわり栽培をされている方は使用できませんので、ご注意ください。

使用方法等ご不明な点は、各営農センターまで気軽にお問い合わせください。

